

第42期中間事業報告書

平成14年4月1日～平成14年9月30日



株式会社島精機製作所

Ever Onward—



CONTENTS

- P.2 … 企業理念
- P.3-4 … 社長インタビュー
- P.5 … 決算ハイライト
- P.6 … 営業報告
- P.7-8 … トピックス
- P.9-11 … 財務データ
- P.12 … ホールガーメント[®]の基礎知識
- P.13 … 株式の状況
株主優待のお知らせ
- P.14 … 会社概要

限りなき前進

全自動手袋編機の開発を創業の原点とする当社は、設立の当初から『世界初』の製品づくりという目標を掲げるとともに、『Ever Onward 限りなき前進』を経営理念とし、創意と工夫により最高機能の製品を経済的な価格でお届けすることを基本に、常に顧客の立場に立ち、ニーズを先取りした製品開発を行ってまいりました。

そして今年、創立40周年を迎え、株主の皆さまを始めとした多くの方々のご支援、ご愛顧により、手袋編機からコンピュータ横編機、デザインシステムにいたるトップメーカーとして、高い評価をいただくまでになりました。

消費者ニーズがますます多様化していく中、これまで培ってきたハードウェア、ソフトウェアの技術力に加え、ノウハウ、デザイン、データまでも含めた総合的なサービスと情報を提供することで、ユーザー業界の発展に貢献してまいります。

総合メカトロニクス企業として、新世紀においても創業の原点に立ちかえり、新たな『創造』にチャレンジし続ける当社に、より一層のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

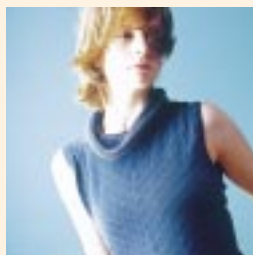
株主の皆さまへ

ホールガーメント[®]の現状と
今後のビジョンについて

Q・ホールガーメント[®]（無縫製）横編機の普及の状況についてお聞かせ下さい。

当社では95年に世界で初めてホールガーメント[®]横編機を開発し発売しましたが、当初はニットメーカーではこれまでの延長線上の新機種としか捉えていませんでした。ホールガーメント[®]は従来の労働集約型産業のニット生産とは別世界の編機であり、知識集約型のこれまでとは全く違う魅力のある製品ができるのです。ホールガーメント[®]の魅力は、従来のセーターのような平面を立体にただけの二次元の製品ではなく、体のシルエットにフィットした立体的な三次元のニットが作れることです。私たちはこれを洋服感覚と呼んでいます。今まで織物の洋服でしか表現できなかったものがニットで可能になり、さらにニットならではの柔らかさ、ドレープ感などが表現できるようになったのです。

しかし、ホールガーメント[®]の魅力が理解されていなかったため、普及、浸透に時間がかかり、まだすべてのニット製品のうちのごくわずかではないのが現状です。今年4月、おかげさまで当社も創立40周年を



代表取締役社長 島 正 博

迎え、その記念イベントの一環としてイタリアからスタッフを招いて国内では最大規模のホールガーメント[®]のファッションショーを開催しました。これには、国内外から多くのユーザートップが来場され、ホールガーメント[®]に対する認識を高められ、大変な好評を得ることができました。これまでの業界への浸透は低空飛行が続いてきましたが今後は急速に普及が進むものと考えています。

Q・今後のホールガーメント[®]の動向についてどのようにお考えですか。

ようやくホールガーメント[®]の認識が高まり、大手アパレルメーカーでも自社ブランドで新製品を発売するところが相次いでいます。これまでニットではできなかった製品を創り出すなど新しいファッション産業が創造されてきています。

当社ではトータルデザインセンターというセクションで毎週60点以上の新しいサンプルを開発し、独自のノウハウ、データとして蓄積し続けています。ホールガーメント[®]横編機とデザインシステム「SDS-ONE」をトータルで提案することで新たなファッショ

ンを創造するシステムを提供しています。

やはりホールゲーム[®]のメリットはコスト削減だけでなく、最終消費者つまり着る人にとって軽量で着やすく、シルエットが美しく、柄や形にも自由度が増えたという点が重要なのです。こういった点は最近になって徐々に認知されてきました。今の日本経済は長期のデフレから脱け出ることができませんが、このように付加価値の高い商品であれば消費者に受け入れられるのではないのでしょうか。

私たちは労働集約型産業のニット生産を知識集約型に導き、ファッション情報産業として生き残れるように貢献していきたいと考えています。

Q・通期の見通しはいかがでしょうか。

当中間期はコンピュータ横編機が中東やアジア市場において好調で、結果として売上、利益とも増加となりましたが、通期におきましても概ね順調に推移する見込みです。連結ベースで、売上高425億円、営業利益83億円、経常利益82億円、当期純利益46億円となる見通しであります。



Q・中長期的な経営戦略および株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

当社の売上構成は85%以上を輸出が占めています。為替変動による利益面への影響が懸念されますが、円建取引比率の向上や為替予約等、組織的なリスクヘッジ体制を敷いております。中長期的には、コンピュータ横編機業界でのシェアアップ、ニット・アパレル業界へのデザインシステムの積極的な提案、手袋靴下編機のマーケット拡大、高収益体質の構築、リスク管理体制の構築を重要な経営目標とし、安定的な成長を目指しております。

さらに株主のみなさまに対する利益還元を重要課題と位置付け、収益に対応した利益配分を積極的に実施していきたいと考えています。

また、5月には藍綬褒章をいただき、あわせて9月にはニット業界への貢献が評価され、毎日新聞社より毎日ファッション大賞・鯨岡阿美子賞を受賞することができました。

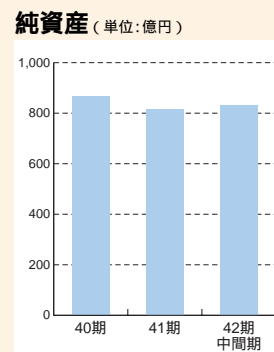
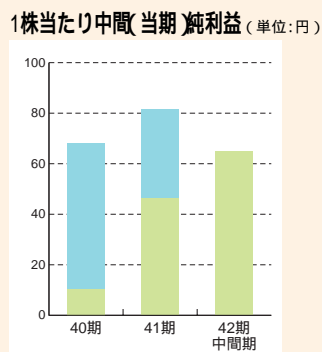
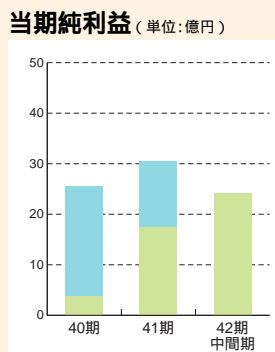
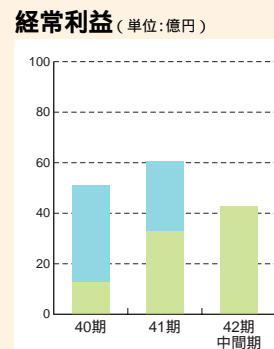
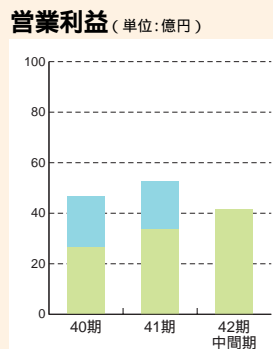
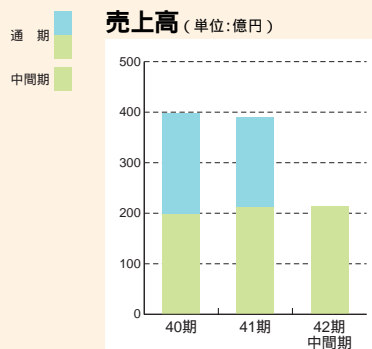
これを励みに、さらに企業価値の向上に努力してまいりますとともに、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

Financial Highlights

決算ハイライト

	連 結			単 体		
	当中間期 (平成14年9月期)	前中間期 (平成13年9月期)	前 期 (平成14年3月期)	当中間期 (平成14年9月期)	前中間期 (平成13年9月期)	前 期 (平成14年3月期)
売 上 高 (百万円)	21,368	21,132	39,096	20,379	19,280	36,369
営 業 利 益 (百万円)	4,175	3,368	5,281	3,475	2,765	4,339
経 常 利 益 (百万円)	4,281	3,296	6,049	3,760	2,931	5,438
中間(当期)純利益 (百万円)	2,420	1,740	3,060	2,195	1,600	2,775
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	64.85	46.30	81.61	58.83	42.57	74.00
総 資 産 (百万円)	94,496	99,929	92,548	90,373	95,289	87,454
純 資 産 (百万円)	83,321	87,687	81,734	78,888	83,605	77,311

業績の推移 (連結)



営業活動のご報告（連結）

横編機部門

当社のコア・ビジネスである横編機事業では、本年4月に開催した当社創立40周年記念事業の一環である「ファッションショー」に、今までにない全く新しい魅力あるサンプルを数多く提案したことや、「インターナショナル・ファッション・フェア（IFF）」などへの積極的な出展により、国内外でホールガーマント[®]の評価が高まっており、大手アパレルでも中心ブランドへの採用が進んでおります。



SWG - FIRST
無縫製型コンピュータ横編機

海外市場は、消費地型生産のヨーロッパやアメリカ市場での消費減退や輸入増加による売上の減速はありましたが、中東の



トルコでは、ロシアなどへの輸出に加え内需も活発で、従来機種を中心に大幅に売上を増加させたほか、アジア地域の中心である韓国、香港に加え中国が好調な推移となり、海外市場での売上高は前年同期に比べ増加しました。

国内市場では、当社独自のサンプル提案などによる、ハード、ソフト、ノウハウを一体とした営業活動を行っていませんでしたが、売上高は前年同期比若干の減少となりました。

横編機事業全体としては、海外市場で前年同期の実績を上回ったことにより、当中間期における売上高は171億60百万円（前年同期比11.6%増）となりました。

デザインシステム部門

デザインシステム関連事業では、ニット・アパレル業界のIT化推進の中核システムであるALL in ONEコンセプトの「SDS-ONE」が、デザインから生産面における高速化、省力化を実現する高機能と操作性が評価され、海外市場で売上を伸ばしましたが、国内市場の回復には至らず、売上高は10億64百万円（前年同期比3.4%増）となりました。



SDS - ONE
デザインシステム

手袋靴下編機部門

手袋靴下編機事業では、前期まで好調であったアジア諸国を中心とした海外市場の需要が一巡し、国内市場でも依然として低迷が続いたことにより、当中間期の売上高は16億59百万円（前年同期比47.2%減）となりました。



NewSFG
シームレス手袋編機

トピックス

ホールガーメント[®]の新展開 ～アパレル業界への新たな提言～

新しい魅力をもったニット

無縫製ニット　ホールガーメント[®]は、1995年に当社が世界に先駆けて開発した最新のニット技術です。一本の糸からニットウェアを一着丸ごと立体的に編んでしまうことで、これまでセーターやカーディガンなどのニットウェアに必要な裁断や縫製の工程をなくした画期的な技術なのです。

こうしたハードウェア面での特長に基づいた、新しいニットの魅力をホールガーメント[®]は兼ね備えているのです。

さて、ホールガーメント[®]は、単に無縫製というだけでなく、まったく新しいステッチやニットテクニクを実現し、ニットの可能性を広げたため、ニットウェアに対する繊維製品としての意識を大きく変えるこ



とになりました。つまり、「ニット」の定義を、分厚くかさばるセーターのイメージから、より繊細でデリケートなファッションアイテムへと導くのもホールガーメント[®]の役割といえます。

また、ファンシーヤーンなどの新素材やファインゲージの風合いにより、ニット衣料も布帛（織物）に近いものへと進化しつつあります。さらに、ホールガーメント[®]は三次元で編成するため、立体的に身体にフィットするだけでなく、ダーツやプリーツなど布帛で見られるような要素を編み込むことにより、布帛の独壇場であったファッション領域へも展開し、新しいファッション分野を開拓しています。

アパレル業界への積極的なアプローチ

このようにハード・ソフト・ノウハウのあらゆる面で、ニットの可能性・将来性を高めたホールガーメント[®]ですが、これまでは「無縫製」や「生産性の向上」というハード面での特長ばかりが重要視され、ホールガーメント[®]がもつソフト・ノウハウの魅力に関しては、アパレル業界でもそれほど注目されていませんでした。

そこで本年4月、ホールガーメント[®]だけがもつ新しいニットの魅力を、国内外のアパレル業界へ向けて強くアピールすることを最大の目的に、創立40周年の記



念イベントの一環として、他に類を見ない規模のファッションショーを開催いたしました。このショーには国内海外の顧客やファッションリーダーなど約700名を招き、ホールガーマント[®]をはじめとした最新のテクニックを集約したニットウェアをご覧いただきました。また、ファッションショーと併せて、360体のマネキンを使った最新ニットのサンプル展示も行うことで、当社の独自技術とノウハウに基づく新しいニットウェアの魅力を提言しました。

さらにファッションショーだけでなく、東京・大阪のコミュニケーションスペース、ミラノデザインセンター、そして本社トータルデザインセンターの社内組織を有機的に結合させて、ホールガーマント[®]にかかわる企画・生産・販売の各段階の最新情報を常に発信し、総合的なサポートを展開することで、ホールガーマント[®]の名は、そのあまりある魅力とともに、アパレル業界で次第に認知され、支持されてきており、実際にこれまでも国内・海外の有名ブランドで採用されはじめています。



ホールガーマント[®]が FEMMEイノベティブ賞を受賞

去る9月22日から25日の4日間、アメリカ・ニューヨークで開催された婦人服見本市「FEMME（フェム）展」で、当社の先進技術の結晶でもあるホールガーマント[®]が、イノベティブ賞を受賞しました。

ホールガーマント[®]の一着丸ごと編めて縫い目が不要な技術が評価されるとともに、創りだされる美しいシルエットは「米国女性の求めていた理想の服だ」と主催者からも絶賛されました。



FEMME展での当社ブース

イノベティブ賞
トロフィー



ISO9001 認証取得

この程、当社では下記のとおり
ISO9001の認証を取得しました。

今後も顧客満足の上昇を目的に
積極的な展開を図ります。



適用規格：JIS Q 9001:2000（ISO9001:2000）

適用範囲：デザインシステムに関する設計・製造
およびアフターサービス

認証取得事業所：本社（和歌山市坂田85番地）

審査登録機関：TÜV CERT

（テュフ ラインランド ジャパン 株式会社）

登録日：2002年9月24日

財務データ（連結）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期 平成14年9月30日現在	前中間期 平成13年9月30日現在	前 期 平成14年3月31日現在
流動資産	61,528	61,343	60,957
現金及び預金	9,964	8,271	10,763
受取手形及び売掛金	39,885	40,844	38,759
たな卸資産	10,286	11,128	10,300
その他	1,839	1,432	1,576
貸倒引当金	447	333	442
固定資産	32,967	38,586	31,591
有形固定資産	18,674	30,423	18,935
建物及び構築物	6,465	6,896	6,752
土地	10,264	21,506	10,267
その他	1,944	2,021	1,916
無形固定資産	127	134	139
投資その他の資産	14,166	8,027	12,516
投資有価証券	4,490	3,204	3,275
再評価に係る繰延税金資産	4,677		4,677
その他	6,036	6,652	6,317
貸倒引当金	1,038	1,829	1,753
資産合計	94,496	99,929	92,548
流動負債	9,476	10,608	9,126
支払手形及び買掛金	4,573	5,181	4,473
未払法人税等	2,034	1,435	1,552
賞与引当金	973	906	651
その他	1,895	3,084	2,448
固定負債	1,497	1,424	1,470
退職給付引当金	1,497	1,424	1,470
負債合計	10,973	12,032	10,597
少数株主持分	201	209	217
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724	21,724
利益剰余金	54,342	51,757	52,513
土地再評価差額金	6,528		6,528
その他有価証券評価差額金	284	516	261
為替換算調整勘定	155	136	58
自己株式	636		632
資本合計	83,321	87,687	81,734
負債、少数株主持分及び資本合計	94,496	99,929	92,548

連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	前中間期 平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで	前 期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで
売上高	21,368	21,132	39,096
売上原価	11,713	12,362	22,938
売上総利益	9,654	8,769	16,157
販売費及び一般管理費	5,479	5,400	10,876
営業利益	4,175	3,368	5,281
営業外収益	223	253	858
受取利息	118	181	343
為替差益			387
その他	105	71	128
営業外費用	117	325	90
支払利息	35	2	5
為替差損	31	280	
その他	51	42	85
経常利益	4,281	3,296	6,049
特別利益			80
特別損失	40	308	917
税金等調整前(当)期純利益	4,240	2,987	5,212
法人税、住民税及び事業税	2,043	1,418	2,471
法人税等調整額	224	174	319
少数株主利益	1	1	0
中間(当)期純利益	2,420	1,740	3,060

連結剰余金計算書

（単位：百万円）

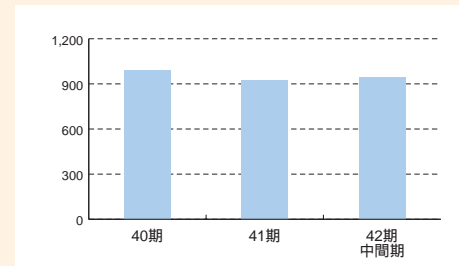
科 目	当中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	前中間期 平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで	前 期 平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	21,724	21,724	21,724
資本剰余金増加高			
資本剰余金減少高			
資本剰余金中間期末(期末)残高	21,724	21,724	21,724
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	52,513	50,610	50,610
利益剰余金増加高	2,420	1,740	3,060
中間(当)期純利益	2,420	1,740	3,060
利益剰余金減少高	590	593	1,157
当 配	559	563	1,127
役員賞与	31	30	30
利益剰余金中間期末(期末)残高	54,342	51,757	52,513

連結キャッシュ・フロー計算書

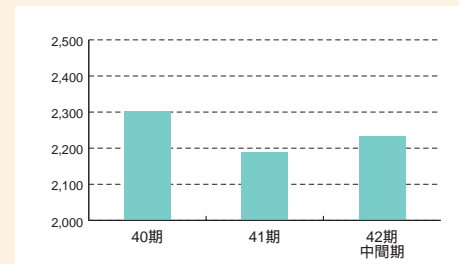
(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前 期
	平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで	平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	4,240	2,987	5,212
減 価 償 却 費	494	521	1,087
受取利息及び受取配当金	128	193	356
売上債権の増加額	1,927	2,426	588
たな卸資産の減少額(増加額)	98	210	1,178
仕入債務の増加額(減少額)	323	55	1,008
そ の 他	192	509	733
小 計	3,096	1,553	6,258
利息及び配当金の受取額	133	194	359
利 息 の 支 払 額	35	2	5
法人税等の支払額	1,561	1,715	2,653
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,632	30	3,958
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の減少額(増加額)(純額)	308	278	247
有価証券の減少額(増加額)(純額)	39	78	95
有形固定資産の取得による支出	347	279	796
有形固定資産の売却による収入	0	1	185
投資有価証券の取得による支出	1,270	70	275
投資有価証券の売却による収入	22	13	13
そ の 他	102	28	174
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,427	564	705
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の減少額(純額)	10	500	500
長期借入金の返済による支出	0	6	7
自己株式の取得による支出	4	0	632
配当金の支払額	559	563	1,127
財務活動によるキャッシュ・フロー	574	1,069	2,266
現金及び現金同等物に係る換算差額	118	56	140
現金及び現金同等物の増加額(減少額)	488	1,547	1,127
現金及び現金同等物期首残高	10,246	9,119	9,119
現金及び現金同等物中間期末(期末)残高	9,758	7,572	10,246

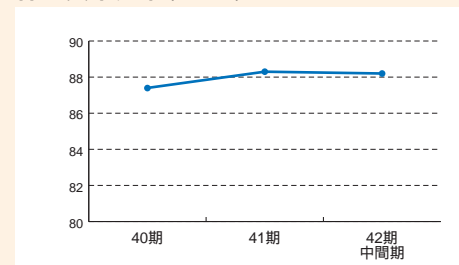
総資産(単位:億円)



1株当たり株主資本(単位:円)



株主資本比率(単位:%)



財務データ（単体）

貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当中間期 <small>平成14年9月30日現在</small>	前中間期 <small>平成13年9月30日現在</small>	前 期 <small>平成14年3月31日現在</small>
流動資産	56,878	56,305	55,416
現金及び預金	6,624	4,456	6,627
受取手形及び売掛金	39,907	41,403	39,102
たな卸資産	9,320	9,750	8,910
その他	1,405	947	1,128
貸倒引当金	378	253	352
固定資産	33,494	38,984	32,038
有形固定資産	17,311	28,992	17,532
建物及び構築物	5,941	6,329	6,186
土地	10,025	21,266	10,025
その他	1,344	1,396	1,320
無形固定資産	117	123	129
投資その他の資産	16,066	9,868	14,376
投資有価証券	4,275	2,976	3,054
関係会社株式	2,471	2,481	2,471
再評価に係る繰延税金資産	4,677		4,677
その他	5,675	6,225	5,923
貸倒引当金	1,033	1,815	1,750
資産合計	90,373	95,289	87,454
流動負債	10,179	10,441	8,857
支払手形及び買掛金	5,829	5,528	4,673
未払法人税等	1,731	1,216	1,430
賞与引当金	829	770	552
その他	1,788	2,926	2,200
固定負債	1,305	1,242	1,285
退職給付引当金	1,305	1,242	1,285
負債合計	11,484	11,684	10,143
資本金	14,859	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724	21,724
資本準備金	21,724	21,724	21,724
利益剰余金	49,755	47,538	48,149
利益準備金	2,124	2,124	2,124
任意積立金	43,358	41,847	41,847
中間(当期)未処分利益	4,272	3,566	4,177
土地再評価差額金	6,528		6,528
その他有価証券評価差額金	284	516	261
自己株式	636		632
資本合計	78,888	83,605	77,311
負債及び資本合計	90,373	95,289	87,454

損益計算書

（単位：百万円）

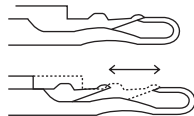
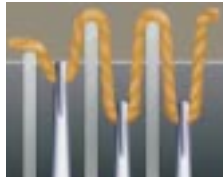
科 目	当中間期 <small>平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで</small>	前中間期 <small>平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで</small>	前 期 <small>平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで</small>
売上高	20,379	19,280	36,369
売上原価	11,951	11,670	22,253
売上総利益	8,427	7,610	14,116
販売費及び一般管理費	4,952	4,844	9,776
営業利益	3,475	2,765	4,339
営業外収益	469	481	1,243
受取利息	93	136	253
為替差益			505
その他	375	344	484
営業外費用	184	315	144
支払利息	35	2	4
為替差損	73	251	
その他	76	62	139
経常利益	3,760	2,931	5,438
特別利益			71
特別損失	40	307	915
税引前中間(当期)純利益	3,719	2,623	4,594
法人税、住民税及び事業税	1,746	1,209	2,189
法人税等調整額	221	185	369
中間(当期)純利益	2,195	1,600	2,775
前期繰越利益	2,076	1,966	1,966
中間配当額			564
中間(当期)未処分利益	4,272	3,566	4,177

ホールガーメント[®]の基礎知識

スライドニードル

ニット編成の原点である編み針は、過去150年に渡り従来型の針（ラッチニードル）が使用されてきましたが、当社は2倍の編成テクニックを持ったスライドニードルを開発、糸に優しくきれいな編目が形成でき、生産効率の向上も実現しました。

スライドニードルで実現した新しいステッチやテクニックは、今までにないデザインの可能性をデザイナー—そして消費者に提供してくれます。



新機構を採用した
スライドニードル

着る人へのやさしさ

ホールガーメント[®]では縫製部分がないため、伸縮性に優れ、ソフトな着心地やきれいなシルエットが得られ、軽量化が図れるなど、着る人に大きなメリットを提供することができます。

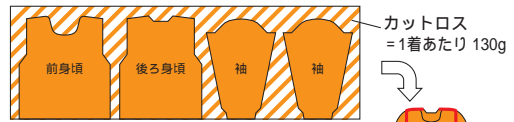


労働集約型からの脱却

縫製工程の省略はニット生産におけるリードタイムの大幅な短縮を図り、ファッション業界における消費トレンドに即座に対応できる生産・供給体制の構築にも有効な手段であるといえます。

[流し編]

・生地編成 裁断 縫製



[成型編]

・生地編成 縫製



[ホールガーメント[®]]

・編成工程のみ



地球環境への配慮

従来の方（流し編）でニットを生産すれば、カットロス（切って捨てる生地部分）や縫い代部分が発生します。その量も1着分では130gと僅かですが、例えば1,000着のウールセーターを作れば、こうした余分な原料となる糸は羊48頭分にもなります。

ホールガーメント[®]では、こうした余分な原料を節約するだけでなく、それを紡績・加工・生産するためのエネルギーも節約できるのです。

株式の状況(平成14年9月30日現在)

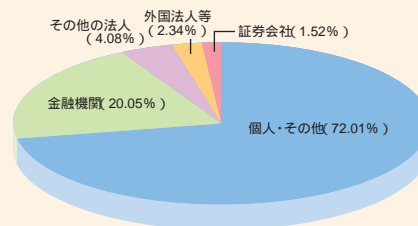
大株主

株主名	持株数	持株比率
島 正 博	5,200千株	13.82%
後 藤 明 史	2,640	7.02
島 三 博	1,980	5.26
株式会社UFJ銀行	1,380	3.67
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,337	3.55
シマセイキ社員持株会	1,144	3.04
和島興産株式会社	1,130	3.00
島 節 子	995	2.64
島 和 代	750	1.99
株式会社紀陽銀行	708	1.88

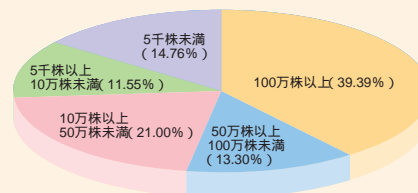
株式の状況

会社が発行する株式の総数 ...142,000,000株
 発行済株式の総数37,600,000株
 当中間期末株主数15,576名

所有者別分布



所有数別分布



株主優待のお知らせ

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、
 単元株主様に株主優待を実施しております。

今9月期の株主優待につきましては、当社グループ企業が経営する南紀白浜「ホテル マーキーズ」
 「マーキーズ サウステラス」の宿泊優待割引券(正規料金の30%引)を進呈いたします。

発行基準		
	ホテル マーキーズ	マーキーズ サウステラス
100株以上	2枚	1枚
1,000株以上	4枚	1枚
3,000株以上	6枚	1枚

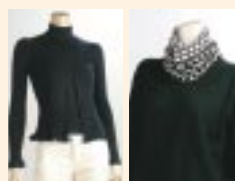


和洋会席料理「冬至」(ホテルマーキーズ)

マーキーズ URL <http://www.aiks.or.jp/marquee/>

3月期の株主優待につきましては、当社オリジナル企画品をお届けいたしております。

【これまでの株主優待品(3月期)】



ホールガーマントニット
(平成14年3月期)



レース製品
(平成13年3月期)



ワイン
(平成12年3月期)



オリジナルニット
(平成11年3月期)

会社概要(平成14年9月30日現在)

会社概要

商号	株式会社 島精機製作所
英訳名	SHIMA SEIKI MFG.,LTD.
本社	和歌山市坂田85番地
創立	昭和37年2月4日
資本金	148億5,980万円
従業員	1,012名
事業内容	コンピュータ横編機 シームレス手袋編機、靴下編機 コンピュータデザインシステム ニットCADシステム アパレルCAD / CAMシステム

役員

役名	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正 博	
常務取締役	田 中 雅 夫	経理部長
常務取締役	村 元 勝	輸出部長
取締役	岩 倉 煌 一	企画部長
取締役	京 谷 実	生産技術部長兼システム生産技術部長
取締役	有 本 博 行	資材部長
取締役	森 田 敏 明	メカトロ開発部長
取締役	和 田 隆	製造技術部長
取締役	後 藤 明 史	営業部長兼トータルデザインセンター部長
取締役	島 三 博	システム開発部長
取締役	片 桐 正 二 郎	総務部長
常勤監査役	大 川 修	
監査役	巽 安 弘	
監査役	的 場 悠 紀	弁護士

(注) 監査役 的場悠紀は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

事業所

本社	和歌山市坂田85番地
支店	東京支店(東京都中央区) 大阪支店(大阪市北区) 名古屋支店(名古屋市中区) 泉州支店(大阪府泉大津市)

営業所	山形営業所(山形県山形市) 福島営業所(福島県伊達郡保原町) 新潟営業所(新潟県五泉市) 甲府営業所(山梨県中巨摩郡昭和町) 四国営業所(香川県大川郡白鳥町)
海外支店	台北支店

株主メモ

決 算 期	毎年3月31日
配当金受取株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月下旬
基 準 日	毎年3月31日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞
株式事務取扱場所	
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 U F J 信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 U F J 信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部 電話 (06) 6229 - 3011 (代表)
同 取 次 所	U F J 信託銀行株式会社全国本支店
	株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行株式会社 の電話およびインターネットでも24時間承っております。
	電話 (フリーダイヤル) 0120-24-4479 (本店証券代行部) 0120-68-4479 (大阪支店証券代行部)
	インターネットホームページ http://www.ufjtrustbank.co.jp/

SHIMA SEIKI

株式会社島精機製作所

和歌山市坂田85番地

URL <http://www.shimaseiki.co.jp/>